

令和7年度 府立丹後縁風高等学校久美浜学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） 中間評価

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 スクールミッション「アグリサイエンス科・みらいクリエイト科を設置する学舎制高校として、幅広い知識と農業生産・食品加工の専門的な知識・技能を高め、新たな価値を創造し社会に貢献できる人材を育成する。」を教育活動の中に明確に位置づけ、その具現化を図る。</p> <p>2 豊かな人間性と社会人基礎力、丹後を愛しその発展に貢献しようとする姿勢、未来を切り拓く創造力を育成する。</p> <p>3 地域の中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを推進する。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 農商連携をはじめ、修学旅行や芸術鑑賞など多くの行事を網野学舎と合同で行い、多くの気付きを得ることができた。</p> <p>(2) 様々な教育活動で地域連携を行い、専門家から地域に根差した活動について深く知ることで、自らの探究活動につながった。</p> <p>(3) 農業クラブの大会に多数参加し、入賞を果たした。</p> <p>(4) 生徒の自主的な活動を支援し、生徒会を中心とした自治活動をすすめる機運を高めることができた。</p> <p>(5) 希望進路の実現に向けた個別対応を充実させ、多くの生徒の目標を達成させることができた。</p> <p>(6) 特別支援が必要な生徒について個別の指導計画を作成し、情報を共有できた。</p> <p>(7) 広報紙やSNSの活用を通じて、学校の様子を保護者や中学生に向けてタイムリーな発信が行えた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 授業規律は保たれているが、生徒の学習意欲を向上させる授業改善をさらに進める必要がある。</p> <p>(2) 生徒指導の目線合わせをして、身だしなみの改善を行う。</p> <p>(3) 働き方改革を進めるために、業務の分担を明確にして平準化を進める。</p> <p>(4) 資格取得に向けた取組が大きく振るわなかつた。</p> <p>(5) 1・2学期の成績不振科目を抱える生徒数を減らせていない。</p> <p>(6) 生徒募集に向けて、本学舎の強みや学習内容が伝わる取組を実施する。</p>	<p>1 グラデュエーション・ポリシーの具現化に向けた取組の計画的な推進</p> <p>(1) 「はぐくみたい力」を明らかにした指導と評価</p> <p>(2) 「課題研究」と「みらい探究」の充実</p> <p>(3) 自主的に学びに向かわせる授業改善</p> <p>2 学舎制を活かした教育活動の充実</p> <p>(1) 合同部活動・遠隔授業の充実</p> <p>(2) 農商連携の一層の推進</p> <p>(3) 合同行事等の検討・実施</p> <p>3 自己有用感の醸成</p> <p>(1) 生徒会を中心とした自治活動の充実</p> <p>(2) 傾聴を軸とした生徒理解と承認</p> <p>(3) 地域との連携による社会貢献</p> <p>4 広報活動の充実と保護者連携の推進</p> <p>(1) 本学舎の特色・魅力の発信</p> <p>(2) 中高連携による体験活動の充実</p> <p>(3) 保護者との情報共有</p>

評価はA～Cの3段階で表記しています。 A：十分達成できている。 B：概ね達成できている。 C：あまり達成できていない。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	安心・安全・快適な教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の安全点検により、危険個所の早期発見・改修に努める。 ・各学科の特色ある教育活動を推進するため、海部Kitchenの改修や探究活動のための整備を行う。 【学校評価アンケートでの施設設備に関する項目の満足度：85%以上】 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の安全点検等でわかった危険個所については、随時対応しており、引き続き継続する。 ・特色ある教育活動を推進するための整備は現時点ではできていない。 【学校評価アンケート：12月実施予定】
	教職員の働きやすさと働きがいの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌ごとに業務を見直し、業務のスクラップや改善を行う。 ・他校や他業種で取り組む施策、好事例を参考に研究・活用を進める。 ・校務用PCの効率的な配置・運用を行う。 【衛生委員会での勤務時間状況で「減った」「少し減った」の回答：30%以上】 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・校務用PCについては、Windows10からWindows11への変更を含め、検討中である。 ・さくら連絡網の導入により、電話対応の時間を減らすことができている。 【衛生委員会での勤務時間状況で「減った」「少し減った」の回答：27.3%】
	広報活動の充実による志願者数の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方、中学生とその保護者に対して、適切な時期に学校の特色を発信し、効果的な広報活動を継続して行う。 【志願者数、昨年度比1.2倍】 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、インスタグラム等を活用し効果的に、情報発信できている。 ・HPは当番制により教職員一丸で広報に力を入れている。 ・体験セミナー参加者数は昨年度並みであったが、学校公開の申込者数は昨年を下回った。更なる効果的な広報活動を進める必要がある。 【志願者数：年度末評価時に集計予定】
	学舎間での生徒合同による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・網野学舎と連携し、計画的に遠隔合同授業を実施する。 ・学舎間連携や小規模校の活性化に向けた遠隔システム活用の在り方等について研究を行う。 【遠隔担当者会議の実施：4回／年】 【学舎間連携行事の充実：10回／年】 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔機器のシステム不具合が多く発生し、業者に依頼して復旧してもらっている。 ・合同の商品開発や、合同田植えや合同稲刈りなど、農商連携を中心に学舎間連携を進めている。 ・学舎合同の修学旅行に向けて、学年レクリエーションを行うなど連携を深めている。 【遠隔担当者会議：2回／9月末】 【学舎間連携行事：7回／9月末】

家庭・地域との連携	地域連携による教育活動充実	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動（実習、探究活動、課題研究、部活動、ボランティア活動等）において、地域や大学・専門学校、福祉施設等との連携を進める。 <p>【年間の取組実施：30回以上】</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・平田オリザ氏による第1回演劇ワークショップや「100人カイギ×久美浜学舎」を実施した。 ・縁風マーケットを開催し、地域の方に生徒が生産・加工した商品を販売している。 ・探究活動において地域の社会人、企業、京都府立大学、市役所など様々な方に協力を得ながら教育を進めている。年間の目標実施回数にすでに到達しているが、今後も更なる連携を進めていく。 <p>【年間の取組実施：30回／9月末】</p>
	保護者への情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・HP、学舎だより、さくら連絡網、インスタグラムを有効に活用して保護者の教育活動への理解を進める。 <p>【学校評価アンケート：満足度70%以上】</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりは毎月発行し、学校の最新情報を発信できている。 ・インスタグラムではリール動画投稿も増やし、「久美浜学舎」の認知を広めている。 ・HP更新について、今年度も当番制により教職員一丸で広報に力を入れている。 ・さくら連絡網を使い、保護者に対して新聞記事掲載やケーブルテレビ放映などの情報を提供している。 <p>【学校評価アンケート：12月実施予定】</p>

学習指導	授業規律の確立「時を守り、場を清め、礼を正す」	<ul style="list-style-type: none"> 「時を守り、場を清め、礼を正す」をキーワードに授業規律と教室の整理整頓の指導を行う。 <p>【生徒アンケート「授業規律」に対する回答平均：3.5以上（4段階評価）】</p>	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 大多数の生徒は規律を守りながら授業に取り組めている。一部生徒の授業に向かう姿勢が不十分であるため、学校全体で個々に指導をしていきたい。 <p>・教室についてはさらに整理整頓に努め、学習環境の改善を目指す。</p> <p>【生徒アンケート：2学期後半実施予定】</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 互見授業により、「解かる授業」のための授業改善を行う。 ・ICT機器、学校図書館、新聞等の活用、探究的手法の導入等の研究を行う。 <p>【授業参観：1人3回以上】</p> <p>【生徒アンケート「授業が解かる」に対する回答平均：3.5以上（4段階評価）】</p>				<ul style="list-style-type: none"> 1学期の公開授業期間における互見授業への参加はのべ36名であった。2学期の公開授業期間でも声掛けを行っていきたい。 ・探究活動の手法については、さらなるブラッシュアップができている。 <p>【授業参観：1人1.4回／9月末】</p> <p>【生徒アンケート：2学期後半実施予定】</p>
	個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の学力の応じた指導を行うとともに、検定試験を活用し、学習意欲を高める。 <p>【各種検定の受験者数：のべ20人以上】</p> <p>【生徒アンケートでの「力の伸びの実感」に対する回答平均：3.5以上（4段階評価）】</p>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 受験に向けての生徒への呼びかけを工夫するとともに、指導体制のさらなる充実を目指す。 <p>【各種検定の受験者数：のべ10名／9月末】</p> <p>【生徒アンケート：2学期後半実施予定】</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 学習に課題を持つ生徒、前年度不認定科目を持つ生徒へ計画的にていねいな指導を行う。 <p>【学年末で不認定科目を抱える生徒の割合：10%以下】</p> <p>【不認定科目の追認考查で年度内合格：100%】</p>				<ul style="list-style-type: none"> 1学期はの不振科目数はここ3年間で一番多い。2学期も基礎補充など、ていねいな指導を学校全体で実施していきたい。 ・第1回追認考查で不合格者がでたので、第2回に向けてていねいな指導を継続していきたい。 ・学習習慣が身に付いていない生徒が多いため、しっかりと学習に向き合おうとする態度を身に付けさせる必要がある。 <p>【数値目標達成状況は年度末評価時に集計】</p>
	専門学科の特色に応じた学習活動・探究活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切にすることで、基礎的な専門知識や技術の習得を図る。 ・生徒の実態に合わせて必要な時期に社会人講師を活用する。 <p>【関連資格取得生徒数：のべ20名以上】</p> <p>【社会人講師活用授業：年間各学年2回以上】</p>	B	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 受験に向けての生徒への呼びかけを工夫するとともに、指導体制のさらなる充実を目指す。 <p>【関連資格取得生徒数：のべ7名／9月末】</p> <p>【社会人講師活用授業：実施講師8名／9月末】</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 学校農業クラブ活動を活性化し、各種競技会・講習会に積極的に参加する。 <p>【各種競技会入賞：5名以上】</p>				<p>【各種競技会入賞：2名／9月末】</p>

生徒指導	安心・安全な学校生活のための規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の一貫した指導により社会的マナーや規範意識の向上を図る。 【学校評価アンケート「社会的なマナー、規範意識に関する生徒自己評価についての肯定的な回答：80%以上】 	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの教職員で毎朝の登校指導を行っている。 身だしなみセルフチェックを3回実施。 身だしなみや携帯電話の指導について、教職員間で指導の基準を再確認し、学校全体で一貫した指導体制を整える必要がある。 【学校評価アンケート：12月実施予定】
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒間の困りごとに対して、早期発見・早期対応できるように教員間の連携を密にし、生徒の実態に迫る指導を行う。 【学校評価アンケート「学校生活への安心度：80%以上】】 			<ul style="list-style-type: none"> 今週の振り返り（毎週）やいじめ調査アンケート（6月）等を実施した。 【学校評価アンケート：12月実施予定】
	特別活動の充実とボランティア活動への参加による自己肯定感・自己有用感の向上	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動を活性化させ、行事等を生徒主体で計画・運営できるようにする。 【生徒会本部役員会：10回以上】 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 新入生オリエンテーションにおける学校紹介、生徒総会、両丹総体壮行会、球技大会、学校祭などの行事で生徒会執行部員を中心に計画・運営を行った。 生徒会として有線放送の原稿作成及び収録に取り組んだ。 生徒会本部役員会は実施できていないが、必要に応じ、担当者を集めて会議を行っている。 【生徒会担当者会議：10回／9月末】
		<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に積極的に参加し、地域社会に貢献できる生徒を育てる。 【「ボランティア活動参加満足度」：80%以上】 			<ul style="list-style-type: none"> 海部放課後児童クラブやビーチクリーン作戦、丹後100kmウルトラマラソンのボランティア活動に参加した。 【参加後に実施したアンケート結果「ボランティア活動参加満足度」：100%（大変満足57%、満足43%）】

進路指導	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見据えた進路実現プラン「未来への架け橋」を学年部と進路指導部と関係各部で連携して、計画的に実行する。 【各学期の計画実施率：100%】 【学校評価アンケートでの進路指導に対する満足度：80%以上】 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現プラン「未来への架け橋」の計画に沿って、各学年とも、進路行事や学習についてほぼ計画通りに実施できている。 ・進路を考えるにあたり、評定平均に対する意識を高めさせる必要がある。 【学校評価アンケート：12月実施予定】
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査や面談を通して得た情報を確実に共有して、目標達成のために必要な指導計画を立てる。 (講習・対策講座計画、模擬試験受験、出願・受験指導等) ・生徒の適性等もふまえながら、十分な進路検討を行う。 【進路検討会議：各学年2回以上実施】 【チューター面談：5回実施】 【定期的な進路指導部面談実施】 			<ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会議については、3年生は4月に1回実施している。1、2年生は2、3学期に実施予定である。 ・チューター面談については1学期に2回実施している。10月、12月、2月に残り3回を実施予定である。 ・必要に応じて、3年生を対象に進路指導部面談を実施している。 ・上位層の生徒の学力を更に伸ばす指導を目指す必要がある。 【進路検討会議：3年1回実施／9月末】 【チューター面談：2回実施／9月末】 【定期的な進路指導部面談実施】

健康安全指導	健康で安全な生活を営む力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活実態を調査し、その結果をもとに保健指導を行う。 【1学期に実施】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 「高校生のリアル」というタイトルで、生活実態についてのアンケートを行った。結果を職員会議で共有するとともに、校内で掲示し、保健だよりに掲載することで、生徒、保護者に知らせた。気になる項目については今後取組を行っていきたい。 【1学期に実施済】
		<ul style="list-style-type: none"> 簡単なトレーニングを紹介し、学校生活の中で大きな怪我や事故を防ぐ。 【基礎体力向上のための取組：年3回】 	A		<ul style="list-style-type: none"> 球技大会前と体育祭前に怪我防止プロジェクトのKUMIZAPを実施した。特に大きな怪我等は見られなかつた。評価は高かつたが、さらなる改善を目指し、実施回数や内容について再検討していく。 【基礎体力向上のための取組：2回／9月末】
		<ul style="list-style-type: none"> 食生活に关心を持たせ、正しい知識と、よりよい食を選ぶ力を身に付けさせる。 【お弁当DAYの実施：年3回】 	A		<ul style="list-style-type: none"> 1学期は「熱中症防止」、2学期は「体育祭対策」というテーマでお弁当DAYを実施した。たくさんの生徒たちがそれぞれ工夫したお弁当を持ってきてくれた。 【お弁当DAYの実施：2回／9月末】
	組織的な指導体制構築と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な会議の実施による生徒の情報の共有。 【教育相談会議・特別支援教育推進会議の実施：年6回】 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談会議・特別支援教育推進会議を3回実施した。職員会議で情報の共有をした。臨時の教育相談会議を3回実施した。生徒の情報を共有し、今後の対策等について話し合った。 【教育相談会議・特別支援教育推進会議の実施：3回／9月末】
		<ul style="list-style-type: none"> 自分自身を理解させ、社会性を身に付けさせる。 【自己理解チェックリストの作成と実施】 	B		<ul style="list-style-type: none"> 「自己理解チェックリスト」をFormsで実施し結果を職員会議で共有した。昨年度と比べ「できない」にチェックした生徒が大きく減った。自己理解を促すために、他者からの評価はどうかという視点を持たせることも必要である。1学期の結果を生徒にフィードバックするとともに、2学期は紙でのアンケートを実施し、生徒の回答を比較・検討する。 【自己理解チェックリスト実施：1回／9月末】

人権教育	教員の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修などを通じて、多様性を尊重した共生社会における高い人権意識を養う。 【教職員研修：1回実施】 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に外部講師を招き、多様な性の在り方について学ぶ研修会を、網野学舎と合同で実施する予定である。 【教職員研修：11月実施予定】
	生徒の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感・コミュニケーション能力、基本的人権、主体的に生きる社会人に対する人権学習を実施し、互いを尊重し、いじめを許さない雰囲気を作り、安心して通える学校作りをする。 【各学年で年1回人権学習HR等を実施】 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生対象に人権学習「就職差別について考える」を実施した。本人の能力・適性に関係の無い調査・質問が差別につながることを理解させ、面接における違反質問への対処について指導した。 ・1年生においては、ライフスキルの授業がコミュニケーション能力の育成や学級集団づくりなど、人権学習の役割を果たしている。 【人権学習HR実施：3年1回／9月末】